（第１号様式）

令和２年４月１日

学校教育計画（令和２年度～令和５年度）

学校名	保土ケ谷養護学校	課程・学科 教育部門・学部	知的障害教育部門 小学部・中学部・高等部

１　学校のミッション

知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労支援の取組を充実させ、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のために、一貫した教育を行う。加えて、児童・生徒の主体的な活動を促す教育活動の充実に向け、不断の授業改善に取り組む。

また、共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流および共同学習等を通した、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図る。

２　学校教育目標

○自立と社会参加に向け、児童生徒が主体的、意欲的に行動し、学び高めあう教育を推進する。
○共生社会の実現に向け、特別支援学校が地域で担う役割を模索し、地域と連携した取り組みを進める。
○多様な教育ニーズがある児童生徒の教育活動全般について、安全に実施する。

＜目指す学校像＞
●元気な学校　　●子どもも大人も安心して力が発揮できる学校
＜目指す子ども像＞
●主体的に活動する子ども　●自己選択・自己決定できる子ども
●友達と協力できる子ども
＜目指す教師像＞
●人権を尊重する教師　●想像豊かな教師
●支えあい高めあう関係を大切にする教師

３　計画策定時点での課題

○学びの連続性については、これまでの研究での取組を通じて授業実践に結びついてきている。今後、わかりやすい授業づくりの観点からもさらに進めていく必要がある。

○共生社会の実現に向けて、各学部等で交流・共同学習に取り組んでいる。活動内容を深め、お互いの評価が高まるように進めるとともに、各グループもあわせて地域と連携した取組の充実を図る必要がある。

○安全・安心な学校づくりに向けて、学校の教育環境を点検し必要な整備を進めるとともに児童、生徒の「命を守る」実効性のある防災教育の充実を図り、児童・生徒自身の災害対応力の向上を図る必要がある。

４　４年間の目標と主な方策

	視点	４年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加を目指し「学びの連続性」「個のニーズに合わせた教育」を推進する。 ・児童・生徒の命を守る教育を推進する	・学習指導要領に基づき、小中高一貫した教育課程の改善を図る。特に隣接する学部の教育課程・学習内容を取り入れていく。 ・防災教育等を充実させ、児童・生徒の安全意識の向上を図る。
2	（幼児・児童･） 生徒指導・支援	・アセスメントを充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。 ・インクルーシブ教育に係る本校の役割を模索し、推進する。	・アセスメントに係る研修の実施や自立活動に係る全体研究の推進を図り、授業に必然性客観性を持たせる。 ・近隣校職員間での研修等を行い、インクルーシブ教育に根差した交流の深化を図る。
3	進路指導・支援	・卒業後の生活を見通し、小・中・高それぞれのライフステージに応じた進路指導・支援を実施する。	・卒業後の生活を見通し、それぞれの学部・学年の段階で身に付けるべき力を獲得できるよう学習内容を工夫する。
4	地域等との協働	・学校運営協議会を活用し、地域との連携を推進する。 ・センター的機能の更なる推進を図る。	・運営協議会の「部会」を活用して、地域の資源を教育活動に活かしていく。 ・学校全体で協働し、巡回相談や公開研修会の実施等を通して支援の質と量を充実させる。
5	学校管理 学校運営	・事故不祥事防止を徹底する。 ・児童生徒と向き合う時間を確保するため、校務の効率化を図る。	・事故不祥事防止や人権に関する研修会等を通し、安全安心な学校づくりを実践する。 ・教員の意識改革・校務の見直し等により長時間勤務の是正を図る。